いのちと地域を守る

石碑や石柱に先人が警句

郷土史に詳しい 浅野　寿夫さん（69）の話

忘れられた津波の記憶

関上の多くの住民は「ここには津波は来たことがない と思っていました」と言いますが、それは間違いです。今から80年前にも津波に襲われています。後世に伝えようと、先人は過去の津波の記録を地域に残していました。

海から約700メートル離れた所に、海抜6・3メートルの小高い丘（日和山）があります。そのふもとの東側に震災前まで、1933年の昭和三陸地震の被害を記した石碑が立っていました。東日本大震災の津波被害を受けた後は、日和山の西側に横倒しになっています。

碑には、「地震があったら津波の用心」のメッセージとともに、地震の40分ほど後に津波が関上に押し寄せ、家屋が浸水したり、漁船が陸に乗り上げたりしたという内容が刻まれています。

77年に発刊された郷土史「関上風土記」には、碑を紹介するくだりがあります。私は郷土史研究で啓発に努めていたからも碑の存在と津波の言い伝えを知っていました。

このほか、仙台東部道路の西側の名取川堤防の東端には、昭和三陸地震の津波の到達地点を示す石柱があります。もとは4カ所に立ったようですが、3本は行方不明になっています。現存するのは1本だけです。

1611年の慶長三陸地震の際には、昭和三陸よりもさらに内陸まで津波が到達したという記録もあります。

わたしは周囲に、過去の津波について話をしています。危機感を持ってもらえるように、そこまで言われれば、そこまではなかった、私自身、関上の街を壊滅させるような津波が来るとは想像していませんでした。

自宅は仙台東部道路の西側にあり、ぎりぎりで浸水を免れました。振り返ると、恥ずかしさでいっぱいです。津波の歴史について認識を持ちながら、その知識を生かせなかった。被害を受けていたら、震災の記憶は忘れられてしまうでしょう。言うのもはばかられる気持ちです。

それでも、大津波が発生した事実を伝えなければ、次世代に伝承し、備えを促したいと考えています。

石碑や石柱の文章を「復刻版」のような形で、現地に残すことも、大切な作業になります。

昭和三陸津波の被害や規模を今に伝える石碑（上）と石柱

復興を目指す街の備え

■むすび塾に参加して

名取市閖上・上町町内会

【防災の課題】津波はいつまた来るか分からない。いま閖上に住んでいる住民は、避難道路を確認しておく必要がある。避難場所や避難所も早く建設してほしい。

＝浅野寿夫さん（69）

【震災の教訓】閖上の多くの住民は「津波は来ない」という間違った認識をしていた。中学生を避難訓練に参加させるなど、正しく伝承していく取り組みが必要だ。

＝橋浦正志さん（72）

【防災の課題】100年たったら人間は震災の記憶を忘れてしまう。後世に伝えるため、津波が来た事実を伝える建物や碑などが必要ではないか。

＝大友吉屋さん（73）

【震災の経験】震災当日、避難を呼び掛けて回った。町内会は毎年、地震の避難訓練をしていたが、参加したことのない住民は避難場所を知らず、誘導しなければならなかった。

＝太田光朗さん（79）

【震災の教訓】地震発生から津波が来るまでに1時間以上あった。だが、750人以上の犠牲者が出たのはなぜか。風化を防ぐためにも、原因を探る必要がある。

＝橋浦輝樹さん（69）

【震災の教訓】閖上に生まれ育った。津波が来るとは思いもせず、認識が低すぎた。「まずは避難」を教訓にしたい。

＝長谷川太さん（64）

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。

次回の「むすび塾」は23日、千葉県白子町の南白亀地区で開催します。

揺れたら逃げるを習慣に

減災・復興支援機構理事長　木村　拓郎さん

復興を果たすまでの防災・減災対策をどうするかが重要だ。当面の避難場所や避難方法を決めて、現地再建を始めた住民に周知してほしい。きちんとやらないと、毎日不安を抱えながら生きることになる。

閖上では震災時、防災無線が機能しなかったようだが、行政情報だけに頼るのは怖い。揺れたらまず逃げる意識を身に付け、逃げながらも、しばらくは避難場所に着いてから、携帯ラジオで情報を得ることが大事だ。

復興は安全に強い街をつくる機会にもなる。これから本格化する街づくりに、防災・減災の視点を反映させるべきだ。要援護者の避難を想定して、5分以内で移動できる所に一時避難場所を設けたり、車いすが通りやすいように道路の歩道を広くしたりするのも手だ。車避難を考えると、内陸へ向かう道路を2車線にするのが有効だろう。

100年後は遠いようだが、ひ孫のことだと考えると、それほど先の話ではない。震災の伝承の一環として、津波被災の資料館や公民館の機能も併せ持つ津波避難タワーの整備を行政に求めてはどうか。